ほっかいどう地域づくりチャレンジャー

北村地域農泊推進協議会　プロジェクトマネージャー　北村　慶如（岩見沢市）

有限会社アグリライフを経営　米、麦、大豆、ビートなど約３５ｈａで作付けを行っています。

また、６次産業化にも力を入れ道内１位の作付けを誇る北村の白菜の漬物をはじめ漬物各種や地元の大豆、米麹を使った味噌などを加工しています。２０１９年には地元の仲間と共に北村地域農泊推進協議会を設立し、地域の歴史や食、北村遊水地を活用したアクティビティーの開発に取り組んでいます。体験するだけではなく日常を体感し地域住民と交流を行うことで地域とつながって欲しいと考えて構築しています。

合同会社オフィスくりおこ　金谷 美咲（栗山町）

栗山町出身。高校生までを栗山町で過ごす。大学進学と就職のため栗山町を離れましたが、栗山町への愛着と、ふるさとへ恩返しをしたいという想いが高まり、2018年に栗山町地域おこし協力隊としてUターン就職。ふるさと納税業務やゲストハウス、ECサイトの立ち上げを行いました。任期満了後は地域商社「合同会社オフィスくりおこ」に入社。現在栗山町ふるさと納税業務全般に携わり、事業者との関係性づくりやPR企画などに力を注ぎ、ふるさと納税を通じての関係人口創出に取り組んでいます。

Ka2 Design　代表　大倉　加奈（赤平市）

札幌市出身。2014年に「炭鉱まちに住みたい」と地域おこし協力隊として赤平市に移住、2017年に任期満了し赤平に定住。2016年に印刷物をメインとしたフリーデザイナー 「Ka2 Design」を起業し、2020年にはキャンプ場以外に宿泊施設のなかった赤平市に民泊系ゲストハウス「かなちゃんち」を開業。

その傍ら、赤平の炭鉱遺産を守り、伝える市民団体「赤平コミュニティガイドクラブTANtan」副代表も務め、デザイン・宿泊交流・イベント等を通じて赤平の炭鉱遺産の魅力を伝えるべく活動しています。

秩父別町役場企画課　地域おこし協力隊　森　瑞稀（秩父別町）

ふるさとワーキングホリデーでの滞在をきっかけに、秩父別町地域おこし協力隊として移住。町の人の暮らしぶりや町の景色をインスタグラムやフェイスブックを使って発信しています。町の人と関わり交流する中で、秩父別町のことや農業に関することを知り、学ぶ機会が増え、自分自身の成長にも繋がっています。これまで取り組んできた町のPR活動・インバウンド事業を通じて、秩父別町の美味しい農作物を多くの人に知ってもらいたいと思い、今後は秩父別町産野菜を活かした商品の開発にも取り組んでいきたいと考えています。

NPO法人　みなと計画　事務局　深井　咲良（江別市）

大学進学をきっかけに転入した江別市で、人々の暖かさやまちの豊かさに惹かれ、卒業後も定住を選択した深井さん。現在は、若者と地域の交流拠点の整備や基金の運用などにより若者を支援するNPO法人「みなと計画」にて、 江別市とタッグを組み、地域の中で大学生のやってみたいを実現していくプロジェクト「EBETSUto」や、道内で活動しているユース世代でつくるイベント「BLUE-D-DAY」のコーディネーターを務めるなど、地域と若者を繋げる場づくりをメインに活動をされています。

任意団体イロイロリビング　代表　坪田　佳之（千歳市）

千歳市役所の職員として勤務されている坪田さんは、「千歳のまちをもっとおもしろくしたい！」という想いから、プライベートでの活動として、2019年に任意団体「イロイロリビング」をスタート。まちのみんなが使いやすいように育てる「まち中のリビングルーム」というコンセプトで、コミュニティスペースを運営しています。「イロイロリビング」は、音楽ライブやトークイベント、間貸しカフェ営業のほか、シェアスペースとしての貸し出しなどを実施しており、市民の活動交流拠点となっています。

「きたひろT.V」ディレクター　池田　和也（北広島市）

2019年に東京都から北広島市に移住された池田さんは、せっかくだから、北広島市を盛り上げたい！という思いから、北広島市民が制作した映像で市の魅力を紹介する取り組み「きたひろ.TV」に参加。「きたひろ.TV」では、レポーターや撮影補助を務めており、主に、北海道ボールパーク関連の動画に出演しています。また、動画の出演をきっかけに参加している「北広島市ボールパーク推進期成会」では、北海道ボールパーク開業に向けて、街全体を盛り上げるため、イベント等の運営や情報発信など、積極的に活動しています。

「株式会社イシカン」代表取締役「有限会社鈴木技研工業」代表取締役　鈴木　圭一（石狩市）

西洋式缶詰工場発祥の地という歴史を持つ石狩市にて、「缶詰をきっかけに地域を盛り上げたい！」という想いから「株式会社イシカン」を設立した鈴木さん。石狩市のブランド豚である「望来豚」をはじめ、石狩市産や道産にこだわった厳選素材を具材にした缶詰カレー「イシカリー」など、地域の一次産業と連携し、おいしい地元食材を使った缶詰を販売しています。2020年10月には、道の駅石狩「あいろーど厚田」に缶詰カレーの自動販売機を設置。「缶詰のまち」を目標に、地域振興のため、積極的に活動をしています。

一般社団法人当別青年会議所　専務理事　松岡　宏尚（当別町）

当別町にある「有限会社松岡商事」で印刷・事務用品販売、不動産、清掃事業等を行う傍ら、「ベジフリークス合同会社」の代表として、農産物販売事業を中心に地域の農業振興に貢献している松岡さん。当別青年会議所や当別町商工会青年部に所属し、まちづくり事業や人材育成事業を企画・運営するなど、まちおこしに積極的に取り組むとともに、グリーンツーリズム事務局や高校の地域コーディネーターとして、様々な分野で広い視野を持ちながら、更なるまちの発展に向けて、日々奮闘しています。

JUSTIN and ROMII　ハウレット農園×RomioRi

ハウレット・ハヌル、笹谷ひろみ（函館市・北斗市）

JUSTIN and ROMIIは、北海道函館市のエシカルブランド「RomioRi」と北斗市のブルーベリー・カシス栽培農家「ハウレット農園」によるクリエーターズチーム。衣・農の分野で自然に寄り添うモノづくりをするなかでミツバチのことやプラスチックゴミ問題に関心を持つようになり、エコフレンドリーなフードラップづくりを始めています。

株式会社函館フーズプランニング　代表取締役　髙野　信子（函館市）

函館市で、飲食店を経営しています。自店では、地産地消を運営の軸にし、【食を通して函館の価値を高める】という経営理念を掲げています。団体活動としては、函館に住む企業している女性を主に構成される函館の女性、略して【ハコジョ】を立ち上げこの地域を他業種の女性の視点から見つめ、課題解決はもちろんそうですが、女性が自分の意志や足で生きることのお手伝いをすることで、地域の幸福度を底上げしＨＡＰＰＹな街にしていきたいと思っています。立ち上げから、活動の拡大までまだまだこれからが楽しみ、というところです。

地域食堂まんまる　代表　高橋　佑実（北斗市）

北斗市のお寺で“地域食堂まんまる”という子ども食堂を開催しています。現在はコロナの影響でフードパントリー活動をしていますが、地域の多世代交流の場、サードプレイスとしてただ「もの」をお渡しするだけでなく、こどもたちが楽しめる仕掛け作りをしたり、お料理教室を企画したりと“まんまるな地域”を目指して頑張っています。

一般社団法人ハイパーイナカクリエイト　代表理事　吉田　浩平（七飯町）

シリアスボードゲーム「ともに生きるBear」は、想定額の倍以上の支援を受けることができたのと、社会課題をゲームで考えるシリアスゲームの普及啓発に大きく貢献したと考えます。GIGAスクール構想によりICTがより身近に感じる中、あえてボードゲームで社会課題を感じ、話し合い、行動を促すことが逆に新しいと感じます。地域おこし協力隊から会計年度職員となり、「7官3民」で副業をしながら自身のやりたいことを行う生き方もあるということも知ってほしいです。

北海道奥尻高等学校　山本　空（奥尻町）

島ならではの地域資源を生かしながら、地域住民と連携した魅力的な活動を行う町立の北海道奥尻高等学校に所属しています。本校の総合的な探究の時間で行われている町おこしワークショップにおいて、私は「エネルギー」分野を担当し、昨年度から奥尻島の地熱発電に使用されている温泉水の有効活用を模索しています。現在、温泉成分調査の実験を行い、人々の健康増進に有効な成分が存分に含まれていることが分かりました。今後、「濃縮温泉水」として製造・販売へ展開しようとしているところです。製造段階から課題は山積みですが、奥尻の温泉を自宅で楽しんでもらえるように日々試行錯誤しています。

Chocola is…　オーナー　門真　千咲（旭川市）

地域に根付いたコーヒースタンド「Chocola is...」を経営。女性が地域を考え、独立し、気持ちよく働ける環境づくりが目標です。また、サウナ好きメンバーとサウナ事業を立ち上げ、コロナ禍でも街を元気にしたいと考え、サウナイベントを実施するなど、市民の健康・食・街の活性化を目指して活躍中です。

株式会社イトイグループホールディングス　代表取締役

菅原　大介（士別市）

「地方創生企業」として、持続可能な地域づくりを目指し、道産材のトドマツ材のＣＬＴ（Cross Laminated　Timber)建築物と流木等を利用した再生エネルギーの循環などの事業モデルを展開。木質バイオマスコージェネレーション事業も計画するなど、地域資源を活用した地域の発展に向け活動中です。

ブルーベリーハウス　オーナー

名徳　知記（音威子府村）

牧場と宿泊施設「ブルーベリーハウス」を経営。ブルーベリー狩り、釣り、牧場ウォークなど、多彩なアクティビティを通じた道北の魅力発信の取組を展開。「道北は北海道観光最後のフロンティア」として、本来の北海道らしさをアピールし、国内外の観光客を音威子府村に滞在させる取組を進めています。

羽幌町役場町民課　羽幌町地域おこし協力隊

三好　由芙子（羽幌町）

日本で唯一の海鳥専門施設である北海道海鳥センターで、海鳥を留萌地域のシンボルとして環境保全と産業振興の推進に取り組んでいます。海鳥の貴重な繁殖地である天売島を中心とする留萌地域の海とその海を支える森・里・川は、海鳥やそこにくらす私たち人間の生活を支えています。そこで、「シーバードフレンドリー(海鳥にやさしい)」をテーマに、環境保全に取り組む地域の事業者の応援・PR、環境教育による普及啓発などの活動を通して、人間にも海鳥や他の生き物にとっても豊かで持続的な地域を目指しています。

NPO法人えんおこ

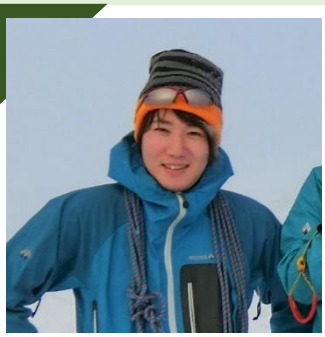
原田　啓介（遠別町）

1985年、北海道遠別町生まれ。2012年まで札幌で過ごしUターン。地域おこし協力隊として活動後、NPO法人えんおこを設立し遠別町を拠点にイベントやPRを手掛ける。写真・イラスト・デザインの個人事業も行っています。

LUSH☆ dance school　代表

澁谷　紗由美（羽幌町）

高校時代に独学でダンスを学び、某テレビ番組のダンス選手権に北海道代表として出場、上京してアイドルの振り付けなどを経験し、2014年に地元羽幌町に戻り「 LUSH☆ダンススクール」を設立。『ダンスで町おこし』を目指して活動中です。夢は、羽幌高校にダンス部を作ること。羽幌町のビーチで野外イベント開催することです。夢はまだまだ終わりません。



天塩町総務課　地域おこし協力隊　野口　裕康（天塩町）

名古屋市出身。学生時代にバックパッカーとして４３ヶ国を旅し、北緯７８度の北極圏の島やコーカサス地方の紛争地帯などを訪れました。その後インバウンドツーリズムによる地域振興に関心をもち、総合旅行業務取扱管理者資格を取得。現在はWEBサイトや動画制作といった情報発信やICT教育関連の分野に携わっています。将来的に北海道において「観光×DX」による、言語や年齢に関わらず誰にでも利用しやすい観光サービスの実現、および都市部以外の地域で問題となる人的資源不足の解決を目指しています。

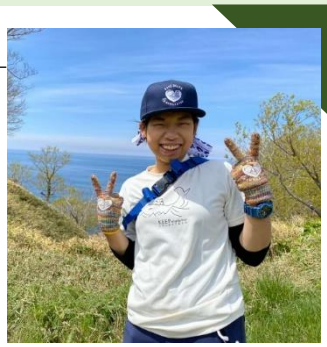
利尻町役場総務課企画係　地域おこし協力隊　安田志穂（利尻町）

利尻町の地域おこし協力隊として地域文化である海藻押し葉の普及活動に従事。次世代への継承を念頭に置きながら、主に学童期の子供達を対象にワークショップや授業の中で海藻押し葉を紹介しています。地域資源を活かしたふる里の文化として海藻押し葉が親しまれ、未来に繋がっていく事が願いです。活動の拠点である、島の駅とゆう築120年程になる島で最も古い建物を再生させた施設では、当時のノスタルジーな雰囲気を鑑賞して貰いながら海藻押し葉のクラフト体験を受けて貰うことが出来、島内外の方々に海藻押し葉の独特な美しさや癒しを体感して貰えるコンテンツとして好評頂いています。

利尻富士町企画政策課　地域おこし協力隊　梅村みゆき（利尻富士町）

自身も富山県からの移住者の1人で、利尻富士町で移住定住担当を務める地域おこし協力隊。町内への移住相談を受ける他、ワーケーションの受入も行っている。利尻の観光では島での生活が分かるようなものが無く、天候にも左右されやすいことから考えたホッケのかまぼこ作りやホタテフライ作りなど地元産の海産物を使った地元料理の手作り体験のアクティビティも運営しています。

北こぶし知床ホテル＆リゾート　経営戦略室　チーフ　村上　晴花（斜里町）



大阪府出身で大学進学をきっかけに北海道へ移住。「北こぶし知床ホテル＆リゾート」広報、CSR担当。大学時代にヒグマの調査研究を行ってきた経験から、北こぶしリゾートの人とヒグマの共生を目指すCSR活動、「クマ活」でヒグマの市街地侵入防止対策に取り組むほか、知床のゴミ問題解決を目指す「知床ゴミ拾いプロジェクト」の中心メンバーとして様々なアクションを起こし、訪れる人も住んでいる人も動物たちも、みんなが居心地が良いと感じる知床を目指して活動しています。

東京農業大学大学院博士後期課程　藤石　智江（網走市）

埼玉県出身で大学進学をきっかけに北海道へ移住。東京農業大学大学院博士後期課程に在学しながら、網走市で空き家を活用し、インバウンド旅行者を主な対象とした民泊施設「あばしりの家」を経営（ホームステイ型）。現在は、結婚・出産に伴い自身の住居が変わったことや、コロナ禍の影響によるインバウンド旅行者の激減により、国内リモートワーカーに向けた非接触、一棟貸しの宿泊施設への転換及び食に興味のある親子を対象とした農業体験や農産物の提供など、食農教育を含めた事業展開を検討中です。

美幌町観光まちづくり協議会　地域おこし協力隊　滝川　朗正（美幌町）

札幌市出身。高校卒業後札幌市役所へ就職。４年働いた後、安定した生活に別れを告げ、世界一周の旅へ。その後、札幌のゲストハウスに就職し、日本文化や札幌の魅力発信に精力的に取り組む。「美幌町をフィールドにアウトドアガイドとして起業する」という美幌町地域おこし協力隊のミッションに魅力を感じ、2020年より地域おこし協力隊として美幌町に移住し、屈斜路湖外輪山トレイル造成への参加や、林道や森林公園でのMTBツアー、美幌峠オンラインツアーなどを手がけています。

ゆいま～る清里　今西　海渡（清里町）

置戸町出身。社会教育主事として清里町教育委員会に勤務しながら、清里町でまちづくり活動に取り組む青年団体「ゆいま～る清里」に所属。地域の子ども達に夢を与える活動をしたいと思い、郷土芸能とヒーローを掛け合わせた地域に根ざしたご当地ヒーロー「セイリュウジン」として４年間、活動している。また、ＳＮＳ等を活用した地域ＰＲ活動にも取り組み、道内外でのつながりづくりを図りながら、清里町の魅力を全国に発信しています。

特定非営利活動法人Qucurcus　理事　及川　雅敦（芽室町）

十勝・芽室町で、町のみならず十勝地域全体の活性化をめざすＮＰＯ法人を運営しています。元地域おこし協力隊の仲間３人で今年５月に立ち上げ、サイクルツーリズムの面から地域の関係人口や交流人口を増やす取り組みを協力隊時代からおこなってきました。農業や食といった魅力ある地域資源を活用した「めむろ散走」といったツアープログラム、冬のスキー場を活用したゲレンデダウンヒルやスノーサイクリングイベントを企画しています。法人設立後は、他地域でのプログラムづくりや広域連携も進めています。

環境省北海道地方環境事務所帯広自然保護官事務所　自然保護官　山北　育実（帯広市）

平成１６年環境省入省。本省自然環境局国立公園課、上信越高原国立公園戸隠自然保護官事務所、大雪山国立公園上士幌自然保護官事務所、中部地方環境事務所等を経て令和３年４月１日より現職。日高山脈襟裳地域の自然環境及び利用状況の把握や指定に向けた地域の関係者との調整等を行っています。

池田町役場産業振興課（池田町地域おこし協力隊）
minotake forest works　川瀬　千尋（池田町）

池田町で複業型の森づくり団体「minotake forest works」を運営。主に広葉樹林を対象として、１００年後、２００年後の森を想像しながら、お預かりした森の価値を最大化するために森づくりを行っている。現在主流の短伐期皆伐ではなく、長伐期多間伐での複利的な森林経営を目指しており、間伐した樹木や樹皮、果実などの特用林産物を販売しています。

上士幌町役場　商工観光課/上士幌町観光協会　観光振興専門員　鈴木　宏（上士幌町）

2018年4月より上士幌町役場へ、地域おこし協力隊、商工観光振興推進員として任用。協力隊の任期満了に伴い2021年4月より同町役場商工観光課 観光振興専門員として任用。現在まで、アドベンチャートラベルを軸とした、上士幌町のアドベンチャー＆サイクルツーリズムの構築、発展に向け活動。来年度より上士幌町ぬかびら源泉郷を拠点に「とかちアドベンチャーサイクル」としてガイド育成事業も視野に入れ公益性を考え一般社団法人として起業準備中です。

シナプスねむろ　代表　濵屋　雄太（根室市）

「幼いころから地域の良さを知ることができればと、もっと地域を好きになり大きな夢を持てる」という思いから「シナプスねむろ」を設立。根室発のコワーキングスペース、ゲストハウス、イベントスペースなどの事業を通じて、持続可能な地域づくりを目指しています。

標津漁師会　会長　浅野　将太（標津町）

標津産をテーマに旬の食材や未利用・低利用の食材を使った料理を試作・開発し、「漁農食堂」として提供！一次産業（漁業・農業）の連携で町の活性化を目指す。多くの人に標津に足を運んでもらうことを目標に取組を展開中です。